

解 答 速 報



昭和大学 一般選抜 I 期

英語 医特

1

| | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|----|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| C | C | C | C | B | B | B | A |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | |
| D | A | B | B | C | A | D | |

2

| | | | | | |
|----|--|--------|----------|--------|-------|
| 1. | It <i>is another</i> that <i>science has no connection</i> at all to ~ | | | | |
| 2. | (ア) in | (イ) of | (ウ) with | (エ) of | |
| 3. | (I) B | (II) D | (III) B | (IV) B | (V) C |
| 4. | <p>科学は経験的データに基づくもので、理論が証拠と一致していても、それが理論の正しさによるのか、単に今のところうまく行っているだけなのか、判断できないから。(76字)</p> <p>[別解] 科学の本質は暫定的性質にあり、ある理論がこれまでの検証や実験で異を唱えられなかったとしても、未来永劫それが真であり続けるという保証にはならないから。(74字)</p> | | | | |

3

| | | |
|----|--|---------|
| 1. | IV | |
| 2. | (ア) it | (イ) sun |
| 3. | an | |
| 4. | D | |
| 5. | <p>人々の脳内のニューロンの興奮の様子を見ることによって、その人々が耳にした文までは正確に再現することができなかったということ。</p> <p>[別解] 科学者たちは、被験者が聞いた文章が正確には何であるか、ニューロンの発火からは分からなかったこと。</p> | |
| 6. | <p>研究者たちは発された言葉に脳内のどのニューロンがどう反応するのかのマップを作成し、脳が意味カテゴリーによって言葉とその言葉の順序を識別していることを突き止めた。この研究は発話障害の人々の治療への将来的な応用が期待される。(110語)</p> | |

～講評～

- 1: 文法・語法 4 択問題。15. は知識的に知らなければどうしようもない問題だろう。1. what have you で「～など、似たようなもの」という意味で、直前の名詞と同類であることを表す表現だが、受験生には厳しい知識だっただろう。2. 名詞に -ly を付けて形容詞化、5. not + any の全否定では後文との矛盾が生じるため not + some を選ばせる問題、10. respectively 「それぞれ」、13. 「構わない、事足りる」の意味の自動詞 do と交換の for といった問題は、文法学習で目にしてきているはずだが、趣向を凝らした出題になっているため、暗記に頼らない本質的な理解が問われた。
- 2: 「科学の暫定的性質」について述べた英文であった。1. の整序問題では、It is another popular myth that ～という構成は気づきにくかったかもしれない。(これは直前文の It is a popular myth that ～を受けたもので、このような同形構文を並べて、次の文で these two misconceptions とまとめているのが出題意図である。) 句所補充問題、前置詞補充問題は比較的取り組みやすかった。4. の理由説明問題に関して、該当箇所が直後の Because that is not how science actually works. という文であることはわかりやすかったと思うが、how science actually works を明確に説明するために次の第 4 段落の内容を盛り込まねばならず、アプローチの難しい問題だったかもしれない。
- 3: 「言葉に対する脳内ニューロンの反応の仕組み」についての述べた英文であった。昨年につき、脱文挿入問題が出題された。2. の語補充問題は、(ア) が強調構文、(イ) が文脈の読解 ('son' と似た音だが異なる意味カテゴリーにある語は何か) を問う形であった。6. の本文要旨説明問題は、110 語記述という点からも大変なものだったと思われる。迅速な処理をするには、要旨要約問題が出題されていることを最初から認識した上で読解をすすめていく手法が望ましかっただろう。

全体として、昨年と似た出題形式と言える。分量は昨年より減少している。ただし、記述量と記述問題の大きさが今年は多少増した印象である。合格には 65% 程度の得点を目指したい。



メルマガ登録（無料）または LINE 公式アカウント友だち登録（無料）で全教科閲覧できます！
メルマガ登録は左の QR コードから、LINE 友達登録は右の QR コードから行えます。



| | | |
|---|--|---|
| <p>渋谷校</p> <p>☎ 0120-142-760</p> <p>東京都渋谷区桜丘町 6-2</p> | <p>名古屋校</p> <p>☎ 0120-148-959</p> <p>名古屋市中村区名駅 2-41-5 CK20 名駅前ビル 2F</p> | <p>大阪校</p> <p>☎ 0120-142-767</p> <p>大阪府吹田市広芝町 4-3 4 江坂第 1 ビル 3F</p> |
| <p>個別専門館 麹町校</p> <p>TEL : 050-1809-4751</p> <p>東京都千代田区二番町 8-20</p> | <p>京都校</p> <p>TEL : 075-746-4985</p> <p>京都市下京区下諏訪町 360</p> | <p>医学部特訓塾</p> <p>TEL : 03-6279-9927</p> <p>東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F</p> |